



子どもたちの挑戦を支えるまなざし

校長 山本 郁雄

今年、三百年の節目を迎えた新潟まつり。本校の子どもたちは、保護者の皆様、百壺番組の皆様とともに住吉行列に参加しました。厳しい暑さの中、神輿を担ぎ進む姿には、伝統ある祭りの一員として役割を果たそうとする静かな決意が宿っていました。沿道から送られた拍手や励ましは、子どもたちの背をそっと押し、最後まで歩き抜く力となりました。

その姿を見守りながら、改めて思いを深めました。子どもは、努力を求められるだけでは前へ進むことはできません。挑戦する姿を誰かに見届けてもらい、その過程を認めてもらうことで、次の一步を踏み出す力を得ていきます。沿道の皆様が寄せてくださったまなざしは、「見てもらえている」「応援してもらえている」という確かな支えとなり、子どもたちの歩みを静かに育んでいました。

日々の学びや生活の中で子どもが示す小さな挑戦を、周囲のまなざしが丁寧に受け止めること。その一步には迷いも期待も入り混じっていますが、揺れを含めて肯定的に受け止めてもらえる経験が、子どもの内側に確かな自信を育てます。その自信は、授業で手

を挙げてみる、苦手な課題に向き合ってみる、友だちに自分の思いを伝えてみる——そうした行動の変化として表れます。肯定的なまなざしに支えられながら、子どもは「次はこうしてみよう」と自ら考え、挑戦を重ねていけるようになります。この積み重ねが、子どもの成長を着実に押し広げていくのです。

新潟まつり三百年の歴史には、地域が子どもや若者の成長を温かく見守り、励まし、共に喜んできた姿があります。こうした関わりが、長い年月をかけて育まれてきたことで、地域に「子どもの挑戦を支える」まなざしが確かな風土として根付いています。その風土は、地域と学校がともに子どもを育ててきた歩みの中で形づくられた、本校ならではの強みです。子どもを支えるまなざしが連綿と受け継がれてきたことこそが、本校の教育を支える揺るぎない土台なのだと感じます。

夏休みが終わり、子どもたちが再び学校に戻ってきました。肯定的で温かいまなざしをこれからの日々の学びへ確かに息づかせながら、新潟小学校は家庭・地域とともに子どもの成長を支える歩みが続けてまいります。